

循環型社会

地球の新しい環境づくりは
ひとりひとりの行動から始まる



ぼくたちができることって なんだろう？

リデュース (Reduce) … 発生^{よくせい}の抑制、
リユース (Reuse) … 再使用、
リサイクル (Recycle) … 再生利用。
この3つのRが、循環型社会を実現するカギ。実は、毎日の暮らしの中でだれでもできることばかりだということがわかる。

資源の回収

暮らしが変われば、モノも変わる。次から次へと登場する新しい電化製品や携帯電話、レンズ付フィルム……。最近では、製品をつくった企業自身が回収BOXを設置して、リサイクル活動に乗り出しているよ。



◀回収され、仕分けされる携帯電話。ここから金や銅などが採取される。



宇宙にも ゴミ問題があるの？

地球の周りには、人工衛星だけでなく、打ち上げの時に切り離された部品や、そのかけらがたくさん浮かんで、宇宙空間を漂っている。スペースデブリといわれるこの宇宙のゴミをどうやって回収するか、研究中だよ。

昔もリサイクルしていたの？



江戸時代は完全リサイクル社会。物や衣類を直して使うのはもちろん、人間や家畜のうんちやおしっこ、生ゴミも畑の肥料として再利用していた。コンポストと呼ばれるこの肥料は、ぼくたちでも簡単につくることができる。

▶ごみ取り

▶ミズ箱をつくってみよう。生ゴミを食べたミズのフンが堆肥になる。

◀灰買い。灰も肥料になった。

ココにも注目！

「愛・地球博」に登場！ バイオトイレ

「愛・地球博」の会場では、環境に配慮したバイオトイレも設置予定。バイオトイレには、流した水をきれいにして再利用するものや、うんちやおしっこを堆肥にかえるものがある。下水の設備を整えにくい山岳地でも、導入されているよ。



▲排泄物を、バクテリアが堆肥にかえてくれる。

目指せ！ ゼロエミッション

ゼロエミッションとは、廃棄物・排出物(エミッション)を資源や燃料として再生して、最終的に廃棄物ゼロを目標とする社会システムのこと。実現までの道のりは長いけど、まずは「愛・地球博」の会場でどんなことができるか、一緒に考えてみよう。



万博会場でも リユース！

一度使用したものを、もう一度使おう、というのがリユース(再使用)。「愛・地球博」の会場で僕たちを楽しませてくれるパビリオンも、万博が終わったら一度解体され、別の場所でまた組み立てられて活躍する予定だよ。

▼「愛・地球博」の会場に設置されるパビリオン

